

令和5年度第2回研修会アンケート

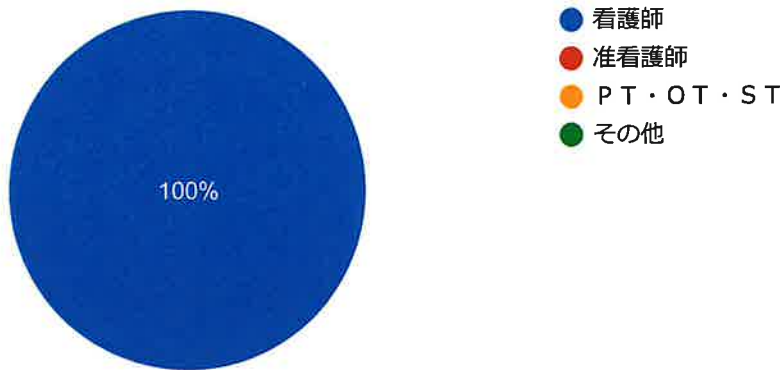
38件の回答

[分析を公開](#)

職種

38件の回答

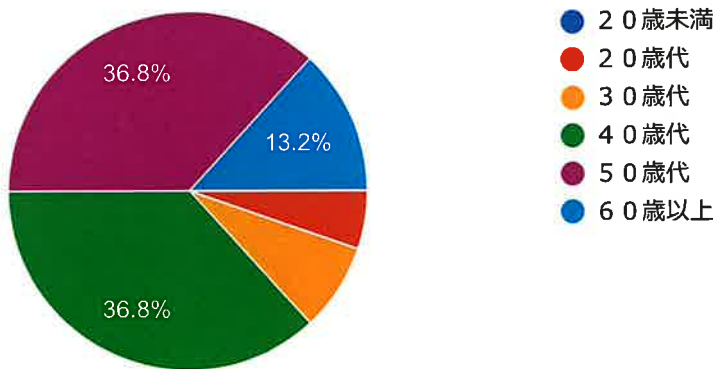
 コピー



年齢

38件の回答

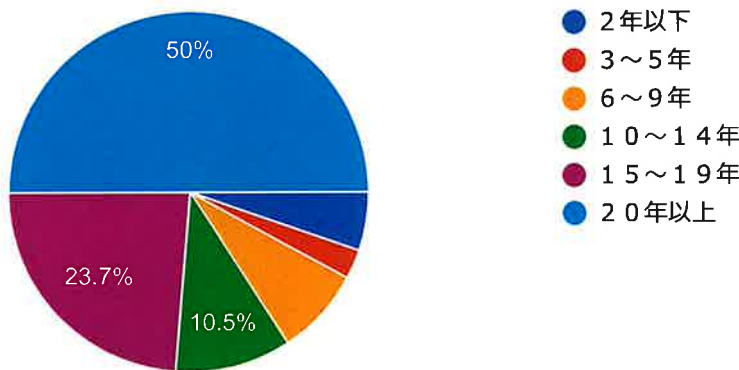
 コピー



看護師・療法士経験年数

38件の回答

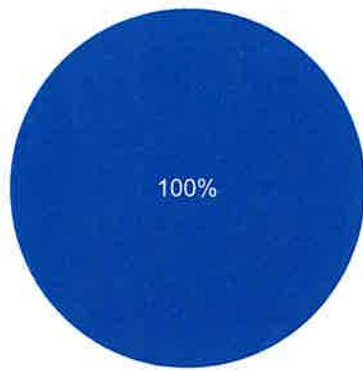
 コピー





現在の勤務先

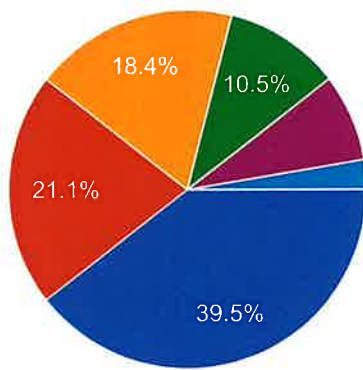
38件の回答



- 訪問看護ステーション
- 病院・診療所
- 訪問看護ステーション以外の介護保険事業所
- その他

現施設または事業所での経験年数

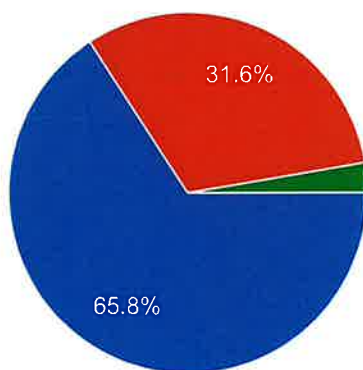
38件の回答



- 2年以下
- 3～5年
- 6～9年
- 10～14年
- 15～19年
- 20年以上

研修会1 緩和ケア病棟における最新治療と訪問看護師に望むこと

38件の回答

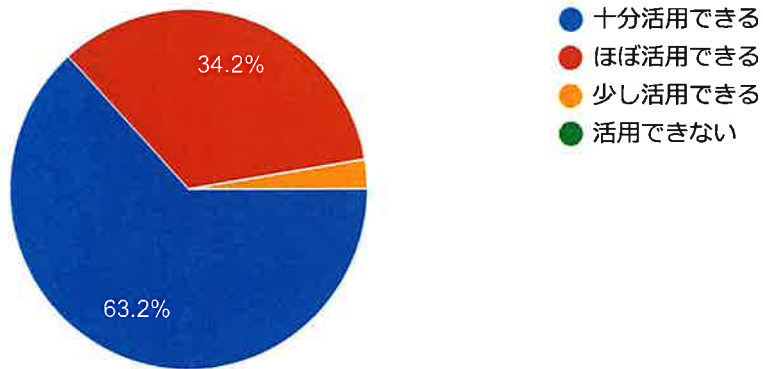


- 十分理解できた
- ある程度理解できた
- あまり理解できなかった
- 理解できなかった



研修会1 緩和ケア病棟における最新治療と訪問看護師に望むこと

38件の回答



研修会1 緩和ケア病棟における最新治療と訪問看護師に望むこと

感想・質問など事由記載

5件の回答

普段、ご本人や家族からの痛みや、不安に対する対応方法がうまく出来ていないと感じていたが、講義での内容を活用させて頂こうと思った。

具体的な声かけについて参考になりました。実践に生かしていきたいと思います。

患者様の訴えや症状などの目の前のことだけに捉われなくて、患者様に起きている全体像を見ることが大切だと思いました。

訪問看護において何が出来るだろうと考えると、病院治療よりも早期に対応することが必要と思います。通院が大きな壁になることもあるので、早い段階で対応できるアセスメント力を養っていききたいと思います。

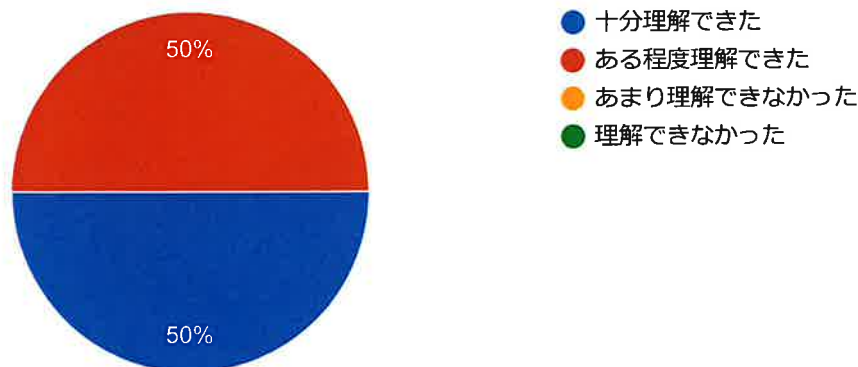
疼痛治療について、薬剤の事も勉強になりましたが、疼痛の評価だけでなく、疼痛治療の目標を患者さんと相談、共有していく事の大切さを学びました。病棟勤務だった時、服薬で多少効果はあっても、患者さん本人は「薬を飲んでも痛みが0にならない」=「薬が効かない、効果がない薬を飲む必要がない」と訴えて、薬を拒否するようになった事がありました。そんな時に今回学んだように対応出来ていればその患者さんにとっても看護師にとっても良い結果になったのではないかと思います。また、呼吸困難について、痛みよりも対応が難しいと感じる事がありました。今回の研修で学んだ事で少し自信ができました。今回学んだ事を今後のケアに生かして行きたいと思いました。

ケースバイケースが多いと思うが応用できる所は応用していきたい。

研修会2 在宅での緩和ケアのための対応と薬剤の使用方法



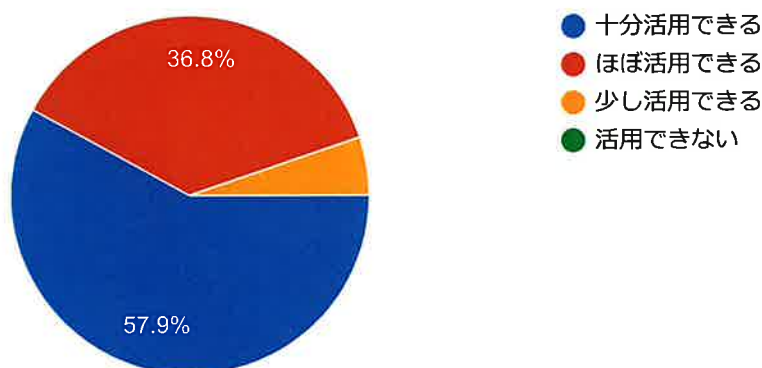
38件の回答



研修会2 在宅での緩和ケアのための対応と薬剤の使用方法



38件の回答



研修会2 在宅での緩和ケアのための対応と薬剤の使用方法

感想・質問など事由記載

5件の回答

疼痛コントロールは、ご本人だけでなく家族にも参加してもらい、薬だけではない疼痛緩和を試みることも必要と感じた。

痛みの性質について共感し、ご本人と相談しながらQOLが維持向上できるように薬剤の一覧表を見ながら関わりたいと思いました。

疼痛や副作用に対して、(下剤、制吐剤、安定剤など、)こんな使い方をしたら、良かった、悪かったなど具体的なところも聞きたかった。

痛みの原因や状況に合わせた投与を考える知識を得ることができました。

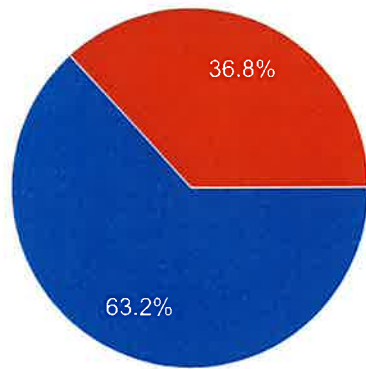
薬剤について、ある程度は理解していたつもりでした。今回の研修で、薬剤の種類、適応、剤形や使い方、効き方、副作用等しっかりと理解して臨むことの重要性を理解できました。単に痛みを抑えるだけでなく、緩和ケアを受ける方が望む生活を送れる事に繋がるのだと感じました。今後のケアに生かして行きたいと思います。





研修会3 事例検討

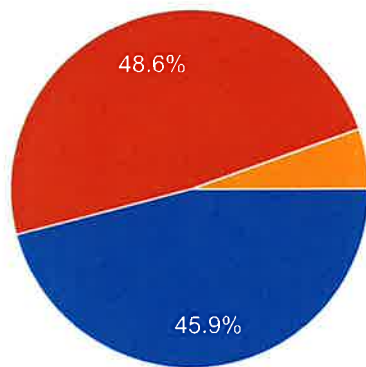
38件の回答



- 十分理解できた
- ある程度理解できた
- あまり理解できなかった
- 理解できなかった

研修会3 事例検討

37件の回答



- 十分活用できる
- ほぼ活用できる
- 少し活用できる
- 活用できない



研修会3 事例検討

感想・質問など事由記載

8件の回答

家族関係へのアプローチ方法や、金銭的な部分での負担の無いような関わり方が出来なかったか？を考えさせられた。また、今後予測される過程を話せば良かったのかなと感じた。

事例と似たケースで、薬の副作用があり自分に合わない、薬飲みたくない痛みを我慢しているケースがあった。今回の研修の中で、痛みの評価についてやアセスメントが必要なんだと勉強になった。

事例提供ありがとうございました。病状の変化に伴い感情の揺れがあるのは当然のことですのでご本人とご家族の意思を尊重して療養場所の変更を支えられたのではないかと思います。

ターミナルケアの介入の事例を聞いて、振り返りからケアを考えることの大切さを感じました。先生方の話しにあったように、ご本人や家族の想いを引き出して、想定できる状況を予め伝えていくこと、希望を知ることが大切だと思います。そしてその希望や目標が変わってもいいんだということも理解しました。

限られた時間の中での予測の大切さや関わり方について様々考えることができました。介入の難しい事例を発表してくださったお陰です。ありがとうございました。

訪問に苦慮されたと思います。今回の訪問条件の中では、最前であったと思います。

自分を強く持って、自分なりのこだわりがある方等、関わり方が本当に難しいと思います。今回の事例を聞いて自分だったらどうしたか、と考えてみましたが、答えが出ませんでした。今回の事例と先生方の話を聞いて今後の看護に生かして行きたいと思いました。

事例検討会で医師、認定看護師、訪看と、それぞれの立場からとても良い話しを聞く事ができました。

今後、研修会で取り上げて欲しいテーマがあればお書きください

3件の回答

医療の日進月歩から、ケアの考え方がどんどん変化しているため同じようなテーマの演題を繰り返しても良いのではないのでしょうか。

今回の事例検討のようなケース(関わりが難しい)について、色々な方々の事例を聞いてみたいです。

多職種連携と家族支援



青森県訪問看護ステーション連絡協議会についてのご質問・ご意見などございましたらお書きください

5件の回答

研修の際、寒過ぎました。環境も整えていただけると助かります。

音声がかもっており聞き取りずらかったです

特にありません。

企画運営お疲れ様です。

会場とzoomの2つの実施で大変だったと思いますが、zoom側は進行の様子が分からず、スムーズではありませんでした。

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。 [不正行為の報告](#) - [利用規約](#) - [プライバシーポリシー](#)

Google フォーム

